

二十三年度全国人権作文コンテスト県大会で、下諏訪町の中学校から、県最優秀賞一点と奨励賞二点、三名の生徒が入賞を果たしました。今号から、それらの作品を順次掲載いたします。

## 意識を変えて素晴らしい未来へ



下諏訪中学校 一年 両角 彩由季

「女性でも。」

私の母は、消防団である。七年前に女性消防隊が発足し、当初からの団員の一人だ。女性消防隊ができる数年は、活動の幅も狭く、町の人にもなかなか浸透しなかったそうだ。それが今では、女性消防隊の活動の幅も広がり、みんなに知られ、認められるようになつたきっかけが、最初の言葉にあるんだよ、と母が話してくれた。

女性消防隊の発足当時は、初めの活動ばかりでとまどいの

ある中、目標と現実の狭間で、模索する日々が続いたそうだ。そして、男性団員には「女性団員だから」と気を使う部分があり、女性団員の意識の中にも、「女性団員だから」と思う部分があつた。例えば、夜間の火災活動や行方不明者の捜索活動だ。「女性だから、夜間の活動は危険だ」「主婦だから、夜間、子どもをおいて出していくのは大変だらう」という考え方だ。

「女性だから」という条件をつけての活動に、男性団員からは、「女性消防隊は何をやつていいの?」「消防活動は本当にできるの?」という意見があり、このままではまわりから認めて

消防団員であることから、母を一番理解し、支えている。そんな父が格好いいなと思う。母は「私が消防活動をできるのは、父ちゃんのお陰なんだよ」と常々言っている。そんな父と一緒に感謝と思いやりをもつていることを感じる。また、父も常に支えている父の姿がある。父は会社員で、昼間働いているが、母が消防の訓練で、夜や休日に「訓練に行つてきます」と言うと、「行つといで」と気軽に送り出し、仕事疲れもみせずに、私たちのご飯を作つた

り、面倒を見てくれたりする。訓練から帰つてくると母は、「ただいま。ありがとうございます」とうございました」と言い、父が「お疲れさん」と返している。そして、母のやりとりを見ていると、お互いに感謝と思いやりをもつていることを感じる。

さくら保育園で防災教室

## 全国人権作文コンテスト県大会 最優秀賞作品

あると思う。でも、その意識を押しつけたり思いこんだりしなければ、お互いに助け合つて、いろいろな活動の可能性があるのだと思う。

例えば、町の歴代町長さんや町議さんは、男性が多い。でも、ここしばらく女性の町議さんが増えている。私の住んでいる地区では、役員さんは男性でも女性でも、区別なく受けていると思う。また、男性が仕事を持ち、女性が家庭を守るという考え方今なおあるように思うが、その逆の家もあるだろう。男性も女性も同じように、仕事と家庭を大事にできたらいいな、と思う。

母の話を聞いて、また、普段の父と母の生活と地域で活動している姿から、「女性だから」「女性だから」と決めつけず、お互いに尊重し助け合い、感謝し合うことを学んだ。「男性でも」「女性でも」と、意識を変えて生きていく社会になれば、それが素敵な未来を創っていくことになるのではないかだろうか。

### 子育てふれあいセンター ほけっと



玄関に入ると、何やら楽しい雰囲気！



子ども同士 母親同士 仲良く



0~2歳児用の絵本・育児書も、たくさん揃っています



一緒に子育てを。相談にものってくれます



赤ちゃん用のベットも。小さい子を寝かしつけて、上の子どもと遊ぶこともできます

どなたでも、無料で利用できます。母親同士、子ども同士で交流できます。施設内は暖かく、木のぬくもりがいっぱいです。保育の専門家もいて、子育ての相談にものってもらえます！

→

人類が生まれた時から「性」が存在し、性が違うことによる区別や意識の差は、どうしても

訓練から帰つくると母は、「ただいま。ありがとうございます」とうございました」と言い、父が「お疲れさん」と返している。そして、母のやりとりを見ていると、お互いに感謝と思いやりをもつていることを感じる。また、父も常に支えている父の姿がある。父は会社員で、昼間働いているが、母が消防の訓練で、夜や休日に「訓練に行つてきます」と言うと、「行つといで」と気軽に送り出し、仕事疲れもみせずに、私たちのご飯を作つた